

消化器内科

1. スタッフ

科長（兼）教授 竹原 徹郎

その他、准教授3名、講師3名、助教9名、医員44名、病棟事務補佐員1名、外来事務補佐員1名（兼任を含む。また、助教は特任、寄附講座を含む。）

2. 診療内容

すべての消化器系疾患を対象とし、特に癌診療を中心として高度な医療を実践している。多数の専門医による極めて質の高い医療技術を基盤に、患者や患者家族の意思を尊重する全人的な医療を心掛けている。さらに、平成25年4月に消化器センターが設立されて以来、内科と外科の連携がさらに強化され、シームレスな診療を実現している。

(1) 肝胆膵疾患

肝疾患ではC型慢性肝炎やB型慢性肝炎を対象として大規模な多施設共同研究を継続しており、世界でも中心的な役割を果たしている。肝癌に対しては、早期診断や治療にも力を注ぎ、ラジオ波焼灼療法、経皮的エタノール注入療法、肝動脈化学塞栓術、分子標的治療などの集学的治療を実践し、良好な成績をあげている。こうした肝癌に対する治療方針は、放射線科、消化器外科とのカンサーボードにより決定され、本院の全肝癌症例を対象として、患者個々に最適な医療を提供している。また、劇症肝炎については、高度救命救急センターにおいて当科、消化器外科並びに救命救急科をはじめとする多診療科からなる“劇症肝炎ワーキング”にて治療方針を決定し、血漿交換や持続血液透析濾過法などの集中治療を行っている。内科的治療が困難な場合は速やかな肝移植の施行が可能である。一方、胆膵疾患では、内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP）、超音波内視鏡（EUS）、超音波内視鏡下穿刺吸引術（FNA）などにより膵癌や胆道癌の迅速かつ正確な診断を行い、消化器外科、放射線科との合同カンファレンスで治療方針を決定し、化学療法や内視鏡的胆膵処置を行っている。

(2) 消化管疾患

食道癌、胃癌並びに大腸癌に対しては、拡大内視鏡などを用いて病変の早期発見と正確な診断に努め、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）をはじめ低侵襲な治療を積極的に行っている。心疾患など重篤な併存疾患を有する患者に対する治療を数多く行っていることも特徴である。治療方針は消化器外科・放射線治療科並びに病理部とのカンファレンスにより決定している。また、標準治療に加え、内視鏡治療、化学療法、化学放射線療法などの臨床試験をはじめとした新規治療にも積極的に取り組んでいる。一方、近年急増している炎症性腸疾患に対しては、小腸内視鏡やカプセル内視鏡など多種のモダリティにより診断や病変把握を行ったうえで、消化器外科・管理栄養士・薬剤師等と合同で週1回カンファレンスを行い、患者QOLも考慮した治療選択を検討するとともに、多くの臨床研究にも取り組んでいる。消化管出血などの緊急時には、高度救命救急センターと連携して速やかに内視鏡的止

血術を行っている。

3. 診療体制

- (1) 定期的に行っている検査スケジュールを表1に示す。この他に当科のみならず他科の入院患者に対しても検査・治療を随時行っている。
- (2) 外来診察は内科東外来にて平日午前・午後に5診察室（1診～5診）で専門外来を行っている（表2）。また、6診（午前）で初診外来を行っている。また、保健医療福祉ネットワーク部を通じ専門外来を予約することができる。再診は予約制となっている。
- (3) 病棟はグループⅢに属し、主に東11階病棟を使用している。病棟体制は10名の主治医を中心に診療を行い、初期研修医に対して主治医がマンツーマン体制で指導している。さらに5名のシニアライター、病棟医長によって万全の診療体制を敷いている。
- (4) 回診、カンファレンス等を表3のとおり行っており、連携のとれたチーム医療を実践している。

4. 診療実績

(1) 外来診療実績

令和元年度の外来患者延べ人数は新患953名、再診41,977名、合計42,930名にのぼる。主な疾患の内訳は表4のとおりである。その他、消化管悪性リンパ腫、消化管間質腫瘍、漏出性胃腸症、腸管パーチェット、腸管アミロイドーシス、偽性腸閉塞症、自己免疫性膵炎、膵内分泌腫瘍、ウイルソン病、ヘモクロマトーシス、先天性肝線維症など、幅広い消化器疾患の診療を行っている。

(2) 入院診療実績

令和元年度に延べ1,304名の患者が入院治療を受けている。主な疾患は表5のとおりで、肝細胞癌、食道癌、胃癌、大腸癌、膵癌をはじめとする悪性疾患の症例を数多く診療している。また、良性疾患では、ウイルス性肝炎や炎症性腸疾患の症例が多いことが特色である。

(3) 検査・治療件数

令和元年度に当科として施行した主な検査・治療件数を表6に挙げている。この他にも内視鏡的止血術、食道狭窄バルーン拡張術、内視鏡的総胆管結石除去術など幅広い診療を行っている。さらに放射線科にて肝動脈化学塞栓術、バルーン閉塞下経静脈性逆行性胃静脈瘤塞栓術、経皮経肝静脈瘤塞栓術などを行っている。

(4) 新規治療

肝疾患領域ではC型慢性肝疾患に対する新規経口抗ウイルス剤に関する大規模な多施設共同研究が進行中である。また、癌領域では、消化管癌に対する内視鏡診断・治療に関する臨床試験や、無症候性自己免疫性膵炎の治療に関する臨床試験、難治性癌である胆膵癌に対する治療を進めている。さらに、炎症性腸疾患においても新規分子標的治療などの臨床試験を進めている。

5. その他

日本消化器病学会認定施設

指導医 11 名、専門医 51 名

日本消化器内視鏡学会認定施設

指導医 7 名、専門医 35 名

日本肝臓学会認定施設

指導医 10 名、専門医 25 名

日本内科学会認定施設

指導医 14 名、専門医 17 名、認定医 59 名

表1 当科検査スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	上部・下部内視鏡 肝穿刺治療計画US	上部・下部内視鏡 腹部超音波	上部内視鏡 腹部超音波 胆膵 EUS	上部・下部内視鏡 RFA	上部内視鏡 RFA、全麻下 ESD 腹腔鏡
午後	ESD、消化管 EUS 小腸内視鏡	ESD、消化管 EUS ERCP	下部内視鏡 胆膵 EUS/EUS-FNA 肝穿刺治療計画 US	ESD、消化管 EUS ERCP 小腸内視鏡	胆膵 EUS/EUS-FNA 下部内視鏡

表2 当科外来診察 (内科東外来)

	月～金
午前診 (1～5 診)	再診 (予約制)
午前診 (6 診)	初診
午後診 (1～5 診)	再診 (予約制)

表3 回診、カンファレンス等のスケジュール

月	火	水	木	金
科長回診 症例検討会 肝臓カンファ ESD 病理カンファ (1 回/月)	診療局会 内視鏡 カンファ	病棟連絡会 (1 回/月) 食道癌カンファ 胆膵処置カンファ 肝胆膵病理カンファ (1 回/3 週)	IBD 回診 胃腸合同カンファ 胆膵合同カンファ 肝組織検討会 (1 回/月)	グループ 回診

表4 当科主要疾患別外来患者数

疾患名	患者数
食道癌	1,539
胃癌	2,449
結腸・直腸癌	2,012
肝細胞癌	2,750
胆嚢・胆管癌	455
膵癌	1,566
胃大腸ポリープ	4,316
B型慢性肝炎	3,940
C型慢性肝炎	3,929
非アルコール性脂肪性肝疾患・脂肪肝	1,590
自己免疫性肝炎	1,161
原発性胆汁性胆管炎	935
食道胃静脈瘤	77
肝硬変	3,198
潰瘍性大腸炎	2,468
クローン病	1,776
嚢胞性膵腫瘍	677

平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月 (患者延べ人数 : 42,930 人)

表5 当科主要疾患別入院患者数

疾患名	患者数
食道癌	100
胃癌	111
大腸・直腸癌	68
胃大腸ポリープ	203
GIST	2
消化管神経内分泌腫瘍	18
肝細胞癌	163
胆道癌	45
膵癌	122
IPMN	15
B型慢性肝炎	6
C型慢性肝炎	41
自己免疫性肝炎	6
原発性胆汁性胆管炎	5
食道胃静脈瘤	31
肝硬変	23
潰瘍性大腸炎	14
クローン病	100
自己免疫性膵炎	7
膵内分泌腫瘍	8

平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月 (患者延べ人数 : 1,304 人)

表6 当科主要検査・治療件数

検査・治療手技	件数
腹部超音波	4,147
上部消化管内視鏡検査	4,870
下部消化管内視鏡検査(大腸)	2,256
下部消化管内視鏡検査(小腸)	127
内視鏡的逆行性胆管膵管造影	288
精査内視鏡(消化管):含 EUS	381
超音波内視鏡(胆膵):EUS	301
超音波内視鏡下穿刺吸引術:FNA	137
超音波内視鏡下治療	8
カプセル内視鏡	69
肝生検(腹腔鏡下・超音波下)	128
ラジオ波焼灼療法	42
食道静脈瘤硬化療法、静脈瘤結紮術	30
アルゴンプラズマ焼灼療法	3
内視鏡的粘膜下層剥離術:ESD(食道)	60
内視鏡的粘膜下層剥離術:ESD(胃)	106
内視鏡的粘膜下層剥離術:ESD(下部消化管)	69
内視鏡的粘膜切除術:EMR(上部消化管)	16
内視鏡的粘膜切除術:EMR(下部消化管)	203
内視鏡的胃瘻造設術	74

平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月